宗像
毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話神湊133番
定価一年送料共500円

神具、装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡支社 福岡市吉塚西林寺町 電話㊷九四五六番
本社 京都市下京区油小路通六条北入 電話 京都㊺（六六）三三七七・七三七七・九八八番

宗像大社国宝展盛会裏に終る

＝東都の注目を集めて＝

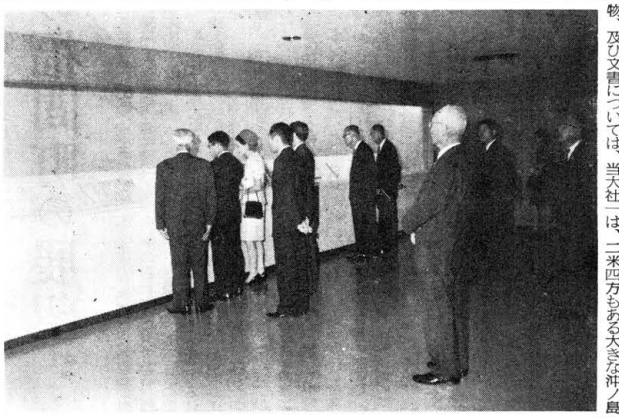
皇太子殿下 皇太子妃殿下 親しく御臨場

前号で御知らせの通り、八月六日より九月廿五日迄、約五十日間にわたる当大社の国宝展がこのほど盛会裏に幕をとじた。

この催しは、当大社復興期成会主催、文化庁後援のもとに、出光美術館にて開催され、初日には文化庁の今日出海長官をはじめ、多数の文化人、作家が来館され、九月廿日（金曜日）には、皇太子殿下並に同妃殿下が御来館になり、この国宝展はありがたい光栄に浴することが出来た。

当日午前九時三十分、出光美術館玄関に皇太子殿下、皇太子妃殿下御到着。出光記助社長の御先導により美術館専用エレベーターにて九階美術館に御臨場になられた。おつきの人々は、東宮大夫鈴木菊男、東宮女官長野村純子、侧衛長高居厳夫、東宮侍従戸田康英、東宮侍従小河清、東宮女官、侍医、その他の方々で、皇太子殿下は紺ダブルの背広、同妃殿下はクリーム色のスーツをお召になり、主催者、当大社復興期成会長出光佐三（出光美術館長）他関係者のお出迎えを受けられた。

会場の御案内は、沖ノ島祭祀遺品については、東大名誉教授三上次男が御説明申上げ、社伝の宝物、及び文書については、当大社宮司 久保輝雄が御説明申上げ、出光社長の御先導により、まず玄関ロビーにお出になられた両殿下は、二米四方もある大きな沖ノ島のカラースライドの前にお立ちになり、沖ノ島の概要について御説明を受けられると、妃殿下が早速、「この島は釜島大然記念物ですか」と御下問なされた。すると殿下が「島に住んでいる人は何人位ですか。」とお訊ねになり、両殿下とも最初からこの神秘な島について、たいへん御関心をおもちのようであらせられた。



次に進まれると、当大社沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮を一緒に上空より撮影した大きな写真があり、ここで宗像大社の由緒についてお話しを聴かれ、特に宗像大神が、皇祖の神勅により御降臨になられた由来を中心にして御説明を受けられた。

次は愈々、沖ノ島祭祀遺品室、すぐ目前にせまるのが四十数面に及ぶ国宝神鏡の一群、そのすばらしさに、殿下は一瞬、立ちどまって会場全体を見廻された。場内の展示方法が実にすばらしく、御神宝は効果的な照明によって美しく輝き、神秘な雰囲気が会場いっぱいに漲っている。

三上教授は、この沖ノ島神宝発見調査の概要を御説明申上げると同時に、展示の鏡について一点ずつその特長について、お話しをされた。それに続き、武器、工具、滑石製品、と次々に御覧になられたが、装身具の真珠、純金指環、釧などは特に興味深く御覧にならせられ、当時の装身具の使い方や、ガラス玉類の製法などについて色々と御質問をなされた。

次の室は社伝の宝物、文書が置かれ、入口で久保宮司が御挨拶をし、御案内申上げた。

辺津宮高宮祭場の大磐々を初め、一筆一切経、木造狛犬、古文書と順を追って御説明を申上げたが、殿下は、まだ沖ツ宮の事について、直接奉仕をしている宮司から、お訊ねになりたいとみえて、沖ツ宮神職の交代、緊急の場合の連絡方法、食糧の運搬など、色々と御下問遊ばされ、いつまでも沖ノ島について、御興味をおもちのご様子であった。

最後に三笠艦羅針儀と日本海々戦目撃状況を記した沖津宮社務日誌を御覧になり、午前十時三十分、一時間にわたる御巡覧を終えられ、東宮御所におかえりになられた。

×　×

復興計画進む
設計担当は伊藤要太郎氏に

既報のとおり、当社大復興計画は愈々その緒につき、これに呼応して、一早く出光興産株式会社では、会社をあげて奉賛の浄財募金活動を開始され、北は北海道から南は鹿児島まで、全国各地から真心こもる浄財が続々寄せられているが、これと並行して御復興事業も着々と進められている。

現在当面している問題は、神社前面の九戸の民家移転、及び約千二百坪の宅地、並びに約四千五百坪の田地の買収であるが、場所が坪の田地の隣接地であり、また神社と氏子の関係にあるので、その交渉に当っては、特に円満妥結を第一とし、そのために地元総代、町議、区長の方達十八名からなる買収委員会が昨年末に結成された。

御来今日まで、数十回に亘り会合がもたれ、具体的解決案が練々討議され、それに基いて慎重に、根気よく折衝が続けられて来たが、幸いに大方の御理解、御了承を得て、その全面的妥結に極めて明るい見通しを持ち得るに至った。本用地買収は、復興計画の基礎となるべきものであり、その一日も早い妥結が待ち望まれている。

また、この程、復興事業の設計担当者として、先年、当社宝物館の設計に当られた東京在住の伊藤要太郎氏に再度委嘱することに決定、同氏は早速、神社に来訪され、神社側の構想を聴取し、現地を具に調査検分して帰京されたが、今後関係者間で討議が重ねられ、やがて、大復興事業の基礎となる設計書が完成されるわけである。

こうした用地買収、設計書作成といった復興事業の基礎的な重要な仕事が目下着々と進められている。

謹記

宗像大社国宝展に
皇太子殿下
皇太子妃殿下をお迎えして

宮司　久保輝雄

さきに宗像神社復興期成会によって、当社復興事業の一環として沖ノ島に関する史実解明のため、沖ノ島の学術調査が行なわれたのでありますが、その結果は莫大な数量に上る特異な社宝が、世に現われたのであります。専門学者も交通不便な絶海の孤島に、古く荘厳な祭祀が行なわれたことを、これら古代祭祀遺品の出現によって確証づけ、報告書は期成会の手により、二冊の図書にまとめられて、広く海外の博物館はじめ有名学府に寄贈されました。

そのため九月初旬東京で開かれた世界人類学民族学会に出席の外国学者多数から、前もってこの社宝を東京で見たいとの要望があったのであります。期成会はその希望に応えると共に、国内人士にも広く当社の尊貴な由緒を知らせようと、格別な配慮を注いで文化庁後援を求め、国宝展開催の運びに至りました。

九月八日会場の丸ノ内、出光美術館に宮内庁次長の瓜生さんも見え、学校の新学期開始で、日曜日は特に拝観者が多かったと聞いて居ります。九月二十日に、皇太子殿下同妃殿下お揃いで、出光美術館行啓のお沙汰が伝えられました。

当日、関係者一同謹んで、両殿下の行啓を拝したのでありますが、その次第は別項記事の通りであります。

第一会場は沖ノ島神宝を陳列し、東大の三上教授が御進講申上げ、一般社伝の宝物及び古文書を主とする第二会場は、小職がおつとめすることになっていましたが、両会場とも終始御熱心に御巡覧になり、お遅りの時刻を延期されたほどであります。

八十歳になる職員が、単身遠隔の孤島に起居して、沖ツ宮奉仕に専念する労苦を、お偲び遊ばされ格別のお言葉を賜わったものと拝察されます。

会場への御進講の時は、その実情を御説明申し上げる時間が僅少のため、奉答に要を得なかった感があったので、直ちに御所に参上して東宮大夫にお目にかかり、御礼を言上すると共に、沖ツ宮奉仕の実情を詳しくお話申し上げました。後刻御殿下に言上申し上げる旨、御返事を賜って、いささか安堵るありがたさを感じつつ退したのであります。

まことに尊貴な宗像大神に奉仕するとは云え、名もなき一神職に対する御仁慈を拝察して、皇室守護、国家鎮護の大神の下に勤仕する光栄を改めて深く感銘した次第であります。

（白雲）

阿蒙少言

夏目漱石の草枕が曙くまでもなく、いつも浮世は住みにくい。都会人のすさまじい神経生活は、お上りさんの平穏な心に何か突き刺さるものを感じさせる。健康を害う悪空気、太陽を遮る高層建築、公害として喧しくなってきたが、都会の中に動くデェスチャーも無用有害とりまぜて複雑、それは精神的な公害だろう。○銀座の一角に乱立する旗、騒音に跳ねかえる叫声、グラビヤに載る露出狂、英雄気取りのヘルメット。イラン大地震の義金募集のメガホンが、慈善事業なら、口角泡を飛ばすユダヤ撲滅論の輩は何だろうか。○多くの無用の雲の中に、ある乱気流の神経生活が、違和を装う空笑いや悲しくもない空涙まで発散する。進歩と言う名の人間機械化は心の太陽を奪い去りそうな気がする。お上りさんはつくづく田舎のありがたさを知る。そして都会の表面に現われないものをも考える。○国税でまかなわれる大学の恩恵を知る苦学生、幣々角隠の無法を流し目に見る勤労青年、明日の祖国の運命を背負う若人は決して平和の押し売り屋にはならない。明治維新を築いた名もなき下級武士と同様に、風雪にきたえられた農村出身が、強い信念に生きている。よい苗は田舎に育つ。日本の魂は太陽とともに田舎に生きている。○教育者も、政治家も、なべて指導的立場にある人々は、太陽を取り戻すことに無関心であってはならない。最近の報道に、鳥も通わぬ八丈島に東人が別荘を作るとか、国をあやまる経済のアンバランス、政治の動脈硬化、学生運動の跋行症状、それをそのに八丈島の別荘に飛べるなら、悲しく果てた流人の亡霊が「ゼイクは敵だ」と教えるかも知れぬ。歴史の価値は時代の心を知ることである。

第八六回 宗像大社献詠歌

毎月十五日〆切　詠草到着順

香椎織田橡雨

ことなせる神の言葉ただふとくもかけまく深しみの広前　深田中野節子

むれかへる納曾堂の奥深く遠く持ち来し井戸水捧げぬ　吉武原田松代

夕暮の畑に草引く吾れの上ゆるく鳴きすぐ一羽のカラス　吉武原田リノ

売りたがる夫に売らぬと言い張りてひと切草取る岡の畑に　津屋崎占部由久

句会より宗像人相寄りて田島放生会の思出話尽きず　大井吉田杏子

走り穂の早や見え初めてはるばるとひろがる青田に秋は来にけり　大井木原房子

忙しく過ぎゆく日々の朝毎に美善やさしく咲き移りゆく　宮田北原君子

目さむれば鳥の鳴く日はうら悲し母病む枕辺はなれもやらず　吉留白木うめの

別れると云うにはあらず明日より母帰へす日は淡雪がする　東郷藤崎辰子

汽まむにまだ刻のある曇染めすギラギラと燃ゆる真紅の太陽　大井安部重郎

秋草の色さまざまに咲き乱れ峡の山道行くは楽しも　大井安部静子

籠闇のうす紫の花の色夜つゆにぬれて尚燦く見ゆ　名島吉田信夫

銀嶺の胸毛よかせ窓になる小鳩のあしの珊瑚色かも　遠賀長畑房江

秋立ちし夜更けの窓に星一つ話しかくる如輝きて居り　原町八波五月

子等がみな親に勝りて育ちしを神の恵みと今日もおろがむ　久留米篠田太郎坊

それぞれの机につきて家内（うえぬち）の静まりくれば虫の音繁し　勝浦永島文子

初秋の秋刀魚（さんま）の味覚ころよし二百二十日も無事な屋鋪は　名残竹原円

農薬をまきたる庭に月いでてひこからか啼くこほろぎの声　福間松尾豊

永病みの試歩庭先に進むれば蓼が手拡げ微笑で近寄る　門司永島哲夫

日の山のケーブルカーの上り下り日毎見てる病院の窓　宮田片山一

十三夜の月を隠して降る驟雨晴れたる空に光る七夕星　宮田片山朔子

華やげるウインドに立てりマネキンの姿態は妖し見開ける眼も　戸畑田中桂一

病む小猫医の香のひざに来ようくまりつつ胸式呼吸をす　戸畑田中ハッセ

散歩にて求めし鉢を浪人の草の机に夫は置きたり　津屋崎麦野時雄

すこやかで長生するすべ講ずし自身実行人にもすすむ　村山田吉田佐市郎

思ほえず贈金うけし嬉しさ孫が入社の日未だ浅きに　朝町井上陽之助

（気節、田家の和静）

しのびよる秋のきざしよず虫のかなでるしらべそよ風に和す　福岡江崎琴子

（護国神社盆まつりに）

献燈のその言の葉に胸せまる盆燈もやすくみそなはすらむ　武丸立石ろせの

待望の雨ふりしきる庭石に蟷螂一つ角立て遣ふ　勝浦永島計七

女客の声かまびすし新築の前の旅館は今真昼なり　宗像中村幸

雨降らば散らむをやはき月に保ち染井吉野の盛りすぎ花　田熊鷲頭かつ代

容赦なく鉄扉の音をきしませて暮きひと日の店を閉ざしぬ　大井村山幸生

ふみきりの警報かすか聞こえつつ更けゆく空に星のまたたく　田熊小野かをる

日のさせば気もさわやかになりけむに雨雲黒く今日も流るる　福岡久保房江

嫁ぐ子への心づかもたたならずバスに二人の母のたたらひ　田島白雲山人

勝ちにまど公剣をさせる禅僧の物語読む秋の夜ふけて

十月のまつり

一日　秋季大祭
三日

当社年間の大祭の一で、俗に宗像放生会とも言われている。

一日早朝、沖、中両宮の神様を大島から神湊まで御座船に載せし、海上十一キロを漁船数百隻がお供して巡航しながら渡御する。

神湊頓宮には辺津宮の神様がお出迎えになられ、神湊頓宮で三宮お揃いの上辺津宮まで神幸され、辺津宮では三宮を迎えて秋季大祭が行なわれる。

五日　徳山宗像神社祭

出光興産徳山製油所、並びに出光石油化学徳山工場内に鎮座する宗像神社二社の秋季大祭。当社から職員が参向して祭典を奉仕する。

五日　献茶祭　午前十一時

茶道表千家家元即中斎千宗左宗匠による献茶が行なわれ、北九州、福岡一円の同門会が参加する。

一二日　的原神社祭

宗像町八並に鎮座される旧摂社的原神社秋祭り。当社から職員が参列する。

今月の言葉

神恩を有難く思い、礼拝するより外に欲筋の事、願望は決して致す間敷き事也。面々勝手くの事を神へ頼むは邪の道なれば、正道の神道は納受し給わず。

苦しい時の神頼みは誰れもよくするところ。

苦しくない時の信心こそまことのものである。

福間町長に井原氏再選さる
〝今後の福間町の展望〟

去る九月二十日、福間町長任期満了にともなう新町長選挙が行なわれ、新町長に前町長井原元彦氏が再選された。

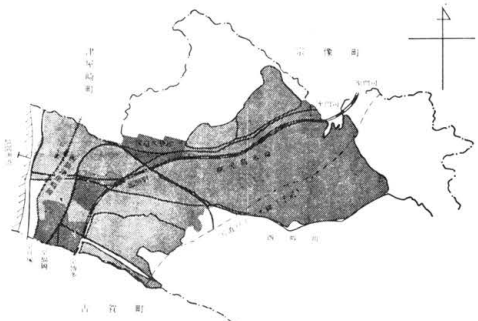
井原氏は昭和二十二年から同三十年までの助役時代を経て昭和三十一年に町長となり、本年まで三期十二年間福間町政にたずさわり、長年の経歴と手腕がこの度の町民の支持を得たと観られている。これで郡内では、大島村長の大島氏と福間町長の井原氏が長年勤続の村長、町長となる。

さて新町長に最近の福間町を展望して問題点を指摘してもらった。

現福間町は昭和二十九年、旧福間町を中心に近隣の神興村、上西郷村が合併して新発足した。これより先、昭和二十八年の大洪水による災害は宗像郡内に大きな爪跡を残した。この災害復興整備のうちに合併が行なわれ福間町が誕生したのである。この後、町財政の立場から南部中学、福間中学の二校を合併して現福間中学が発足した。昭和三十四年大洪水によって河川が氾濫し、この整備が町事業で進められた。この頃から福間町に産業誘致の問題が検討され運動の結果、名糖産業、名糖株式、九州変圧器、福間化成等が進出した。昭和三十七年には福間町は全国優良町村として表彰を受けている。

近年にはベットタウンとしての誘致によって八幡製鉄の八幡団地、国鉄職員住宅団地、県住宅供給公社による東福間団地が造成されて発展している。また上水道施設が完成され、上西郷、神興地区を残して福間、各団地は給水を受けており、上水道化は郡内一となった。今後の展望について福間町の青写真を伺うと、これからの各種の問題は町の問題として取り上げる前に宗像郡内、或は隣りの粕屋郡との共通問題として捉えてゆかなければならないとしている。塵芥処理については現在七カ町の組合がこれに当り泌尿処理には四カ町、学校組合は三カ町、上水道については各町毎に計画しているという現況である。能率化を計る為には、広域行政の立場から再検討されるべきである。住宅問題については、宗像郡がベットタウンとして福岡、北九州から最適な位置にあり、交通機関の発展にともなって益々住宅需要は増大すると見られる。従って福間町にがてもベットタウン化の問題は住宅用地とこれに伴う諸問題（上水道、下水工事、泌尿、塵芥処理、教育問題、道路等）を共に考えてゆかねばならない。農業に対しては農業構造改善をより強力に推し進めなければならない。

福間町の町有原野山林だけでも百町余り保有しているので、この土地を開発し柑橘類の生産をたかめて農業所得を考えている。新しい町政は流動する産業景観の長期の見通しに立って個々の問題に対処したいとしている。



宗像談話室　月下の氷人

「君のカカさん（奥さん）の名は何だったかネ」

結婚披露の祝膳についた仲人が、新郎にこっそりたずねた。頼りない月下の氷人である。

とは云え、複雑化する社会生活に、部下や知人の子弟の縁談に関係を持つ事情も多くなってゆく。事務的に他人の一生の大事を処理しては、甚だ申訳けない話だが、やむを得ぬ。新婦の名も知らぬ、あやふやな仲人が生まれるわけ。

「新婦A子さんは、新郎B君にふさわしい才媛でありまして」

今聞いたばかりの花嫁の名を、何年も前から知っているような顔して、紹介の弁をくり広げる。才媛か愚物か知るものか、名前さえご存知ないのに。

この結婚には、大げさに言えば、日本民族婚姻史に前例を求め得ぬ。悲しくも、まためでたきエピソードが秘められている。うそばかり列べるつらい仲人役、型どおりの挨拶の中に、婚約解消を解消したB君の、世にも稀なる婚姻作戦を思い出して、微苦笑が胸中を去来した。

「先生、二三日のちに一日ひまが出来ましょうか。」

数年前の夏の盛りの、ある日のことである。遠方N県につとめるB君が、一週間の休暇をとって飛び込みの第一声。こちらも気の早い方では、人後に落ちない自信があるが、それに輪をかけたようなだしぬけの仲人依頼。

「相手はどこかい……一ぺん解消したあの娘か、よろしい明後日があいてる、式を挙げろ」

あの娘こそ新婦のA子である。安月給の上に飲み助、農協につとめる実直な兄に、小遣い銭の無心は常習のプログラム。結納金を包んで婚約はしたものの、飲み代の借金が矢の催促で飛んできては痛い。万事休す、結納金を取り返して穴うめをする以外にない。窮餘の一策は、遂に婚約を解消した。

N県に転勤して、飲み仲間の悪縁が切れた。悪縁が切れると、解消したA子嬢が良縁として浮かび上った。どんな手を打って、よりをもどしたか知らないが、解消を解消した次第、人生はまことにおめでたい。

「婚約をやめたか、よかった、からだが弱そうなら、やめたがよい。女房は世帯道具だ、たゝき殺しても死なぬ丈夫な娘がよい。人類の半分は女だ、又さがせ」

恐るべき先生である。PTAに出席して、懸河の弁をふるって演説するマダム連の前で、世帯道具論でも出そうものなら、吊し上げもよいとこ。

「あの娘にまたきめたか、よかった、からだが弱ければ気性もやさしかろう。女房はやさしい女性に限るよ。」

人生はまことに悲しい。結納金取り返しの一幕が、借金返しの苦肉の策の舞台裏とは、後日の告白で、知らぬが仏の先生は、話の成りゆきが急変する毎に、ほめたりくさしたり。

「B君が飲み過ぎて、家庭を困らせるようだったら、いつでも手紙を。飛んで行って叱りつけてやるから」

これは挙式後、知らぬ他郷の任地に、ついて行く可憐なるA子への、はなむけの言葉だった。これは先生のでたらめではない。ほんとうに同情しての親心であった。

ところが、もう可憐ではない。子供が次々に生まれて、内外ともに夫婦の肩に重荷がかゝってくると、結納金取り戻し、借金穴うめ、再び婚約、などと若気の至りはいつまでも通用しない。

良い家庭をつくっている。A子夫人も良妻賢母に成長した。折々の里帰りの時、挨拶に来る姿を見たり、手紙を読んだりすると、今こそ確信をもって、「ふさわしい才媛」とほめたくなる。

—狸住庵茶話

永島計七氏逝去さる

去る九月三日、前宗像神社責任役員、同氏子会々長、永島計七氏が急逝せられた。享年七十八才

氏は昭和二十七年十月、占部要市氏子会々長の突然の辞任の後を受けて、昭和三十年迄、高宮復興、辺津宮本、拝殿の修理等を含む一連の文化財復興奉賛会事業を始め、各種の難問題に対処され、よくその任を全うされ、その功績は筆舌に尽し難い。又政治家としても昭和二十一年一月三十日に旧勝浦村の村長に当選、昭和三十年二月二十八日迄の九年間、その職にあり、そして昭和三十年四月の津屋崎勝浦二村の合併に尽力され、二村合併後も新津屋崎町の町長として、昭和三十五年十二月三十一日にその職を辞される迄尽力され、昭和二十二年より三十二年迄は宗像郡町村長会の会長をも兼務された郡の長老であった。

葬儀は去る九月三日勝浦小学校講堂において、津屋崎町の協力のもと、勝浦校区葬をもってしめやかに執り行なわれた。永年の功績に感謝の意を捧げると共に御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表する次第である。

歌会〝互選歌勉強会〟開かる

去る九月二十二日（日曜日）午後一時から、宗像大社斎館に於いて、当社歌会が開催された。

この日の歌会は、同会発足当初の会合にて決定されたもので、毎月行なわれる勉強会ともいうべきものである。この日は、肌寒い小雨模様の悪天候にもかゝわらず、参会者十数名、持ちよった各自の詠歌を互いに選び合い、織田橡雨先生の添削を中心に熱心に討議された。この意見交換の中にも、互いにその歌を通して、よりよく理解しようとする姿が多く見られ、微笑ましくも和やかな会であった。午後四時過ぎ、次会での再会を約し閉会した。

歌会は、祭典行事等のさしさわりのない限り毎月第三日曜日に行なわれる。次会も左記の通り行なわれますので、御出席出来なかった御方に、この誌上をかりまして御案内申上げます。

記

一、十月二十日（第三日曜日）　午後一時より

一、互選歌兼題「朝」

一、十月上旬〆切

皆様の御参加をお勧め致します。

社務日誌抄

一日　勅祭請願祈願祭斎行。用地委員会開催。

二日　出光興産福岡支店新入社員参拝。

四日　秋季大祭海上神幸打合会。水難救済会々長永島計七氏逝去。

五日　筥崎宮熊谷権祢宜他一名浦安舞装束借用の件にて来社。

六日　出光興産横浜支店長並販売店代表等六名復興奉賛寄附名簿及寄附金持参にて参拝。久保宮司、宇都宮祢宜上京。

七日　宗像高校々長中村喜代志氏新着任挨拶の為来社。教育に関する発起人会開催、参会者七十名。

九日　遠賀郡神鋼サービスセンター起工式、当社職員奉仕。

十四日　氏子総会開催、於清明殿。

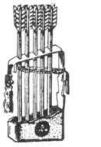
十六日　弥彦神社高橋権祢宜来社。

十七日　福岡県知事外職員参拝

—玄海の味・生魚料理—
みなと荘
宗像郡玄海町神湊
電話　神湊56番

許斐の旗風（このみ）

（其の二十）



葦浦柴舟作
福田長庵画

尊氏動向の(二)

右馬介の帰陣と、ほとんど時をひとつに、播磨の赤松円心からの急使が、太宰府の営に着いていた状には——

三月初旬このかた
新田金吾（義貞）ノ大将
当城（白旗城）を取籠
防禦おこたりなしと雖も
兵糧　不用意
万一にも
御帰洛、延引あらば
城方の結束も
堪忍せしめ難し
早々
御進発急がれたく……

云々とあって事態の容易でないことを訴えて来た。

尊氏が西下のさい他日を約して、山陰、山陽に残しておいた仁木頼章（よりあき）や今川駿河守などからも、同日付けの飛脚が、前後して、尊氏の手許へ着いた。

みな一様に
御東上、延引

となれば、とうてい新田の大軍はささえがたい。

急ぎ、御進発をと、いまや尊氏の再上洛を首を長くして待つ声ばかりなのだった。

——かくして
帰洛の御評議あるも
衆言、たちまち
両議に別る

と「梅松論」にあるが、要するに出発いまだ早しとする時期尚早論と、即刻東上すべしとする。二つの意見があった。

ここで尊氏は即刻東上することにきめた。しかし彼の心中は初めからそこにあったらしい。

目日がたつのは早いもので、尊氏が太宰府に入洛以来一カ月余になる。この間、彼は外には一度も出ず、太宰府にて全軍を指揮していた。

四月三日、白旗城および、三石城危急の報が入り尊氏は愈々諸軍を率いて出発することになった。

※梅松論、太平記は四月廿六日とあるが天正本は三日とあり、大日本史、菊池伝記等は四月廿六日とし続史愚抄は四月廿一日とある。

博多湾に集められた大小数百そうの船は、ただちに九カ国の兵馬や、食糧武器を満載して、東へむけ出発を開始した。

しかし尊氏自身は乗船せず、別の一軍を率いて同日、陸路を通り、最初九州に上陸した筑前芦屋の浦にむかった。

異国的な博多の風物、玄海の磯の香、すべてが中央や東国とは異なり豊かに見える。

二度と見ることは出来ぬであろう風物を眺めつつ尊氏は一歩一歩と東へ進んだ。

多々良の浜辺も千代の松原と調和し、実に美しい。今となってみれば、ここで天下の決戦が行なわれたとは想像もつかぬ。しかし尊氏は、そこここを見まわして、感慨無量な様子であった。

多感な彼の胸中は凱歌の門が、こうねんと征野の前に開かれた思いであったろう。

しかし、今は亡き兵士達の事を思うと彼の胸はいたむのであった。多々良の浜で馬を止め一塊の土へ向って、深くぬかずいたのである。

これこそ亡き兵士達への回向の意だったにちがいない。

同道の諸将も、みな尊氏に合せて拝礼を行った。

やがて香椎の浜を過ぎ、青柳の部落にさしかかった頃、宗像の許斐城では、尊氏に同道上洛の軍議が進められていた。

神郡宗像の当主、宗像大宮司氏範は、このたびの事態について、すべてを許斐城主、許斐三郎康氏に一任していたのである。

康氏は下臣より色々と意見を求めたが、いずれも要を得ない。と云うのも上洛の最適任者は、城中の現況からして渡辺小太郎克忠であることは皆一同意中に思いながらも、新婚早々の克忠を指名することは情においてしのびがたく、誰一人として口に出すことは出来なかった。

と、その時、周囲の情況を直ちに察した渡辺小太郎克忠はすっくと立ちあがり、

「私が参りとう御座いまする」

と一同に計った。

皆この克忠の発言に対し、不審な面持ちで一斉に城主康氏の顔をみつめる。

康氏は憂いをこめて黙りこんでしまった。

はりつめた空気が周囲に漲る。

城主康氏は遂に断を下した。

「許斐の副将渡辺小太郎克忠に尊氏殿上洛同道を命ずる。」

克忠は諸準備の為直ちに退城、屋敷に帰った。

（つづく）

交通反則通告制度

十月一日から点数制度を併用、予備期間を設けて　来年十月一日から実施へ

七月一日から交通反則通告制度が実施されている。

現在、運転免許の保有は年々ふえ、三人に一人は免許を保持していることになる。

しかし、従来は軽微な違反でも罰金が定められて、前科をもつものが免許保持者の1/3を越す勢となり、他の刑事上の前科まで軽くみられる風潮なので、この情勢に即応した制度が検討され、罰金とはならない反則金制度が設けられたわけである。

この制度によって、事務の簡素化、合理化が計られ、反則行為に対しては行政処分がない点ドライバーに歓迎されている。この反面、金さえ払えば反則はいくらでもOKとなる風潮を取締る事と、危険な運転者を選別する為、ポイントシステムが検討され、この十月一日から予備期間が設けられ、来年十月一日から愈々実施となる模様である。

このポイントシステム（持点制度）は最初に或る一定の点数が免許保持者に与えられ、違反毎に定った点数が減点され、或る一定点数まで下降すると運転免許の停止、それ以下は取消しとなる。

この制度は従来の行政処分を明確、公平に実施しようとするもので、

一、行政処分の基準を点数で明確にして運転者の違反について自制心をもたせる。

二、累犯者を的確に把握して危険な運転者の選別を迅速に行なってこれを排除し、交通の安全を計ろうとするものである。

免角、反則金を払えば良いとする安易な考え方を防止する合理的な制度と言えそうである。

この度の反則金制度で適用をうけないのが軽車両である。自転車はこの中に入るから、同じ違反でも自動車等は反則金であるのに対して、自転車は検挙になる。

自転車の無燈火、二人乗り、交通の激しい道路での運転等の違反をなくする様つとめたい。

秋の日射しを浴びて

古武道の奉納演武

去る九月十五日、宗像大社境内拝殿脇広場において神道夢想流杖術、及び柔気流柔術の奉納演武が行なわれた。これは神道夢想流杖術乙藤流師範の門下生達が乙藤道士会創設記念祝賀の為催されたもので柔気流柔術宗家の八木不動氏も参加された。

神道夢想流は夢想権之助を始祖とし、夢想権之助が黒田藩に食客となった時残したと言われる型を中心として編まれたもので、杖術の様々な型が披露された。

棒と杖との違いは棒が七尺であるのに対して杖は四尺三寸分と短かく、刀に対しては一尺程長くなるわけである。刀の使い方が或る程度限られているのに対して、杖は突いたり、払ったり、掬めたり攻撃方法が自由なことが特徴とされる。

柔気流柔術は古武道の精神にのっとり、実戦を主としており、スポーツではないとしている。この為、反則等は設けないとの事。従って実戦に行なわれる事を予想して全ゆる攻撃を可としている。この流派は女子の入門を断わり、入門資格を柔道有段者からと言う厳しい制限を設けている。

柔気流柔術宗家の八木不動氏は、山口県毛利藩武術指南の家に生まれ、少年時代から柔道、剣道で鍛えられ、その後空手、合気等各流を学び始めて一流の境に達し、柔気流柔術宗家となった。氏は日本古武道の精神を高揚したいと語っている。

今迄の武術が先手なく受身から始まると説くのに対して、奉納の古武道は先手必勝を掲げ攻撃を主とする勇しいものであった。

宗像の諸城

城址を訪ねて (十)

許斐の出城　飯盛山城址

許斐城の出城として第一番に挙げられるのが、この飯盛山城である。このことは都誌をみると、飯盛山古城、内殿村に在。飯盛の峯迎鉢をもれるがごとくなる山、此村の境内に在。其七古城の址有。是宗像方、許斐の城より前へ置ける砦なり。彼城より常に守る者を、交替して遣し置りと云……と記されている。

この城は粕屋郡の立花勢を考慮に入れた城である。つまり大友の後盾を得、粕屋全郡を領する立花勢は、香椎に近い立花山にその本拠地を構え、中国の毛利勢と相対していた。

毛利の軍勢が神郡宗像に対し注意を注がぬ隙を狙っては宗像へ攻め寄せるのであった。

ここに飯盛山城の必要欠くべからざるものがあった。

上西郷城址

神郡宗像といえども時には敗れたことがある。その折々に戦さの代償として取引きされたのがこの城で、上西郷の部落であった。故にこの城は「応上西郷城と呼んだが、はっきりとした城名が残ったわけではなかった。城址も「村の南に城山がある。」

とあるのみで今は田畑となって居り、古老の話にも「あの辺じゃろう」と伝えるだけである。

高宮古城

畦町部落に高宮垣があり、この頂に古城の址がある。これを高宮古城と呼んだ。

この部落の西には古戦場と呼ばれる所がある。この戦場とは、弘治年間、大内氏の家臣であり、許斐城、大内家から城衆（城代）として仕えていた宮賀筆作守隆忠が大内家滅亡を悲やいなや大友に降伏しようとしていた許斐城の城主は、これを聞くや腹を立て、二百余名を引きつれ、高宮勢と戦う隆忠の横合へどっと攻めまくり、ついに畦町の山端で隆忠の首を討ち取った。

事は多くの方々の御協力のたまものと感謝する次第である。中津宮さまは弁天様のお膝をただいてこの筑前大島が益々発展するよう共々努力してゆきたい」と述べられた。

ます立花勢が宗像を落とし入れるには、どうしても許斐城に立向かわねばならない。宗像勢も許斐城に一気に押し寄せるべくもまりもあろうはずはない。

〃第五弁天丸〃進水す

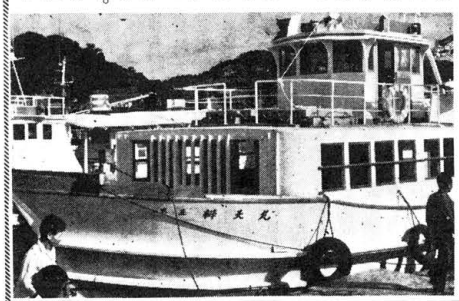
大島―神湊間に就航

既報の通り大島―神湊間を結ぶ定期連絡船第五弁天丸は、去る九月二十一日早朝司港を発して大島港に美しい船体を現わした。白く塗られたデッキの上に赤青の旗が風にはためく。港内波止場には美しい弁天丸を見ようと村中の人達が集ってくる。

自分達の船が出来たという喜びがどの顔にもあふれている。

午前九時、第五弁天丸船内に於て、大島村長を始めとする関係者相集い当社職員奉仕のもとに新船のつつがない運航が祈願されて祭典は終了した。

午前十一時には中津宮大島居下で、村中の子供達を集めて紅白の餅撒きが行なわれた。この後、大島公民館にて多数の来賓、報道関係者を招いて式典と祝宴が催された。来賓から、「県道等は県費をもって修理されている現状からして、離島の連絡船は将に県道にも比すべきものである。今後県費等によって連絡船が建造されてかえるべきである。数年後はかかる方途が開かれるものと信じている。兎角多大の起債のもとに立派な新船が独自に建造された事に対し心から喜びを申し上げる」旨の挨拶があった。また大島村長からは「この連絡船は離島大島の足であり、何よりも優先すべき懸案の一つであった。この度、新船が建造され、就航の運びになったことについて心から喜びを申し上げる」旨の挨拶があった。また大島村長からは「この連絡船は離島大島の足であり、何よりも優先すべき懸案の一つであった。この度、新船が建造され、就航の運びになった事は多くの方々の御協力のたまものと感謝する次第である。中津宮さまは弁天様のお膝をただいてこの筑前大島が益々発展するよう共々努力してゆきたい」と述べられた。



話題の新車をみる (十三)

マツダロータリークーペ

一五八年に伊国のラメーリーはロータリーピストン式揚水ポンプを発明した。以後蒸気機関のシエームスワットを始め各人の努力にも拘らず、完成品を出すに至らなかった。そして一九五九年、西独バンケルとNSU社は共同研究確立、そして、内燃機関の基本的条件、すなわち作動室内のガスシールが確実であること、ガス換気が確実であること、適正な燃焼室形成が必要なこと等に欠けていたからである。

ロータリーエンジンは往復運動に伴う慣性力の制約がなく、熱効率の不良なピストンの上下往復運動により出力を取り出す複雑な機構のレシプロエンジンに比し、円の中をおむすび型のローターが回転するにより出力を得る簡単な機構のエンジンの開発に以外と長い年月を要したのは、一に数学、幾何学の不確立、そして、内燃機関の基本的条件、すなわち作動室内のガスシールが確実であること、ガス換気機構が簡単なためにコストを下げる等の利点がある。

東洋工業のコスモ、ファミリアロータリークーペはいずれも世界初の2ローターロータリーエンジン車であり、コスモは一九六七年5月30日の発売、ファミリアロータリークーペは昨年秋の東京モーターショーにRX85として登場した。今回はこのファミリアロータリークーペについて紹介をしたい。

ファミリアのボディを基本にクーペスタイルにして流麗なサイド、およびリヤビューを特徴づけ、前輪ディスクブレーキを標準装備、そして一〇〇馬力の採用でもレキュラーガソリンで充分、前進4速オールシンクロメッシュ式トランスミッション、回転半径四・二m、最大速度一八〇Km/hから四〇〇メートル発進加速は一六、四秒と若者向きの優れた車、そして静かな室内に、三人乗って二速で発進加能、急に街角をまがるのに一速にシフトダウンの必要なしと云う風に無精者向きでもある。望むくは大量生産の効果があらわれコストダウンされた安い車の登場を願う次第である。

又、ファミリア一二〇〇クーペが既に市販されており、これと今回のロータリークーペはスタイルが同じで、フロントグリルにいくらかの変化をあたえるだけなのは惜しい。ロータリーエンジンと云うイメージをよる強力にアピールする新スタイルを誰もが望むのではなかろうか。

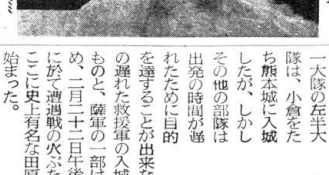
参拝道開通

北九州方面からは　東郷橋を渡って右折

当社参拝道とも言うべき県道宗像―玄海線の中間地点が橋梁工事の為、国道三号線東郷橋からの釣川沿いの県道は、昨年十二月から通行止めとなっていたが先月橋梁工事が完成して開通となった。

舗装も国道から約一キロ、まるや橋まで完成しているが、あとは来年度になる見通しである。

北九州方面から参拝される方は迂回せず、以前のように釣川沿の近道を御利用下さい。



宗像伝説　其の八十五

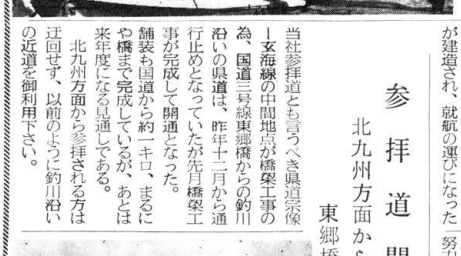
西南役外伝

征韓論に破れ野に下った西郷隆盛は、明治十年二月十七日鹿児島私学校二万余士を引き連れて「政府に物申す事あり」として上京の途についた。国境を出て薩軍は一挙に熊本城を包囲した。この時攻撃の薩軍は福野利秋薩原国幹を将とする二万余手の旧士族の精兵、籠城軍は谷干城を司令長官に仰ぐ四千三百余の鎮台兵、谷干城は緻密に状勢分析をした結果、熊本城の存亡には西日本に於ける人心の向背に重大な影響を及ぼし引いては政府の浮沈に関すると観測し熊本城を堅守する事に決心した。

これより先二月十三日、彼は西郷に不穏の動きがあると見て小倉第一連隊長、乃木希典に急兵を率いて来援するよう命令した。

翌十四日早朝第一大隊の左先大隊は、小倉をたち熊本城に入城したが、しかしその他の部隊は出発の時間が遅れたために目的を達することが出来なかった。この遅れた救援軍の入城を阻止せんものと、薩軍の一部は北上をはじめ、二月二十二日午後七時植木町において遭遇戦の火ぶたを切った。ここに史上有名な田原坂の死闘が始まった。

田原坂において彼我の戦況が一進一退する間、熊本城の守備軍は数度に亙る強襲にもゆるまず堅守した。籠城ひと月のある日、敵襲その隙を抜くことに成功した。これにより薩軍主力は壊滅した。これにより薩軍主力は壊滅した。九月二十四日鹿児島城山にかげる西郷隆盛の自刃により、七カ月にわたって天下の耳目をあつめた西南役も終了した。役後、熊本鎮台司令長官谷干城は、筑前宗像の武功抜群なりしは、筑前宗像の人、隈原千次郎なり」と幕僚に語ったと伝えられている。今日、郡内神野字畑ケ迫の楠樹の緑濃きあたりに、軍光院鎮義居士と深く刻み込まれた彼の墓石を仰げば感慨胸に迫りくるものがあろう。（H）



宗像大社献詠　俳句作品集(十)

大井　木原　房子
新涼の風に瓢のゆれやまず

大井　吉田　杏子
花むくげ真白に咲きて吾子旅に

津屋崎　白石百合蔵
青田の鷺片脚あげては風かはす

久留米　篠田太郎坊
虫の音を聞かむと隈処に草残す

門司　永島　哲夫
倉庫群に秋の朝日のおちつきて

平等寺　中野　きみ
法師蟬鳴き初むとある農暦

田熊　小野角次郎
夕涼み月を軒端に遠山に

田熊　小野かをる
亡き人に思ひ走せ行く墓参かな

東京　宮本　酒城
同好のいじり残せるやぶの萩

門司　城戸　幸穂
頼まれし名つけ稲穂の句にもとむ

福岡　久保佐々江
虫の名を歌にひきだす山住居

田島　白雲　山人
史話説かぬ桜田門の彼岸花

田島　井上　託子
ふと伝ふ秋のふかみかいけし花

マルクスが日本に生まれていたら

出光佐三一問一答シリーズ　㉖

質問　生産された剰余分は、社会主義では国有となり、資本主義社会では私企業に私有されていくということが両者の本質的な違いとなります。

出光　そこが重要なところだが、働いた結果の生産物が、それを生み出すために働いた人たちにもどるのは、あたりまえじゃないか。そして自分たちの福祉・発展のために用いられるのがほんとうの筋だよ。それから、人間として自分の子供、兄弟、肉親、友人などに対する愛情をもち、それらの将来の生活の安定に対して関心をもつということは、理屈以外の人情であり、人間の本能ではないか。自分の働いたものを全部使わずに肉親のために残すということは、人間として当然のことであり、結構なことだと思う。だから勤勉で、そして節約して肉親のために残してやるという、そういう人が、立派な愛の人だと思う。ところがそれを全部国家が取り上げて悪平等、不公平に分配するということは、人間のあり方を知らない考え方だ。ことに国営という非能率なことをやって、むだづかいを国家がやるということは、資本家の搾取と同じようなものではないかと思うね。

21　マルクスは、企業利潤は労働力の搾取から生まれるというが…

質問　資本主義経済と搾取とは不可分の関係にあるわけで、したがって資本主義企業の利潤は、労働者の労働力の搾取によって生まれる、とマルクス主義では考えています。店主は利潤についてどう考えられますか。

出光　なにもぼくはマルクスのように、労働を搾取した分が利潤だ、などとは考えない。理屈ではそうなるのだろうが、それは「物の国」の考え方だと思うね。

出光の場合、原油を輸入して精製し、製品をつくって販売をする。この過程で利益が生まれるが、これが労働の搾取だときめつけられると、なんと答えてよいかわからん。吹きだしたくなるね。

「物の国」の理屈からいえば、そうこじつけるかもしれぬが、そう考えなくてもよいだろう。出光では、そんなことははじめから問題にならんよ。若い社員に聞いてみたまえ。

ぼくは、利益とか利潤とかが、どこから出るかということよりも、その出た利益をいかに考え、どのようにとり扱うかが大切なことだと思う。これを金持が我欲・利己で一人占めしていたのが「物の国」の姿であり、日本でも大阪の金持の商人にはそういうことが見られた。ぼくは学生時代、これに反発したんだよ。ぼくの学生時代の大阪の商人の考え方は、金儲けのためには投機・買い占め・売り惜しみをやり、手段を選ばぬというふうだったんだ。金さえ儲け

りゃよい、人情を商売に交じえることは商人として堕落だ、なんて言われたんだ。その時代に内池先生は、商売は金儲けではないと言われた。よく言われたものと思うね。中間搾取をなくして生産者から消費者をつなぐ唯一の商人が必要である、と言って、事業の社会性を説かれた。ぼくはこれを聞いて、よし、ぼくの進む道はこれだ、と思ったんだ。この中間搾取をなくして商人の使命を果たすことによって得る報酬が、ぼくの言う合理的利益ということなんだね。ぼくは利潤とか利益というよりも、報酬という言葉のほうが、日本人にはピッタリするんじゃないかと思うね。

ぼくは利益について、門司に開店してから、四、五年たったころ、大いに悩んだのだ。自分が高く売れば、相手が損をする。相手に安く売れば、自分が損をする。なんと商売とはおかしなことだ。こんなバカげたことをどうしてはじめたのか、いっそやめてしまおうかとも思った。そのうちに、第一次大戦がはじまったが、石油業者からみると、品不足になるのがわかっていたので、お客さんに、これだけの物を買って倉庫に預かっていますよ、値段はこれこれですよと知らせておいたことがある。だから、ぼくのお客さんは油の供給が切れることがなく、価格も上がらずに、ずっと仕事を続けることができた。そのときにぼくははじめて、商人とお客さんとは対立するものではない、専門の知識をもって働き、油のほうは私が全責任を引き受けますから、あなた方は本業に全力を注いでくださいという互助の精神を知った。そして、これが商人の使命であり、事業の社会性というものだということがわかったんだよ。

この間のスエズ動乱のときも、出光はけっして価格を上げずに、お客さんに油の供給の不安を感ぜしめなかった。

このように、金儲けに走らずに商人の使命を果たし、それの「報酬」という考えが、日本人の利益の考え方なんだよ。

よく資本主義下の企業は、利潤追求を目的とするなんていうが、利益は企業生存のための前提であって、第一目的は今述べたように、商人の使命を果たすことだよ。事業の社会性に目ざめていかなければ、もう時代遅れだぜ。

出光では、企業内部では従業員本位、外部へは消費者本位ということでやっているのであり、利潤追求とか、労働の搾取とかいうことは、少なくとも出光では関係がないんだね。これには面白い話がある。門司で開店後四、五年したころ、今から五十年前だが、第一相互保険会社から加入の勧誘を受けたときに、ぼくは「相互」ということに非常な興味を感じた。そこで営業から出た利益の合理的部分を消費者に割りもどししようと思ったが、これは各消費者によって価格が違うので、割りもどしの基準がきめられず、実行に移せなかった。最近、出光は社員の数が増加したので、四億の資本金を十億に増資したが、その三分の一の三億三千万は社員がもっていて、ぼくの持ち分はふやさなかった。そこで株主のない株が中間に出てきたので、この配当金を社会に還元しようということを考えているんだが、これは五十年前の考えが今日実現の第一歩に入ったと言えるわけだ。この「相互」、「互譲互助」ということが、日本の民族性の基礎であり世界平和のもとなのだから、これを日本民族がよく体得しておかなければいけない。

質問　マルクス主義によれば、個々の資本家がいかに人道主義的な心の強い人であって搾取をつつしんでも、それはその個々の資本家を資本主義のきびしい利潤追求の競争場裡から脱落させるだけであると言いますが、どう考えられますか。

出光　搾取をつつしんでいると競争に負けてしまうと言うが、そんなバカなことがあるか。ぼくには、なにを言っているのかわからんよ。資本家から搾取される会社は発展しないんだ。出光では搾取がないからこそ発展しているのであって、それは実体で示しているのだ。搾取をやって利潤をあげて会社を発展させるとは、とんでもない考えだよ。

それから会社の経営者が人道主義で従業員をいたわってやると、会社が非能率になり、競争に負けると考えているようだが、それは「物の国」の考えであって、理屈だ。「人の国」の日本ではそれが反対なんだ。愛によって育った人は純情でお互いに信頼し合う。そしてこれを鍛練して実力の人とする。そしてはじめて一致団結した力強い総合力が発揮できる、これが、資本は人なり、ということで、これを日本人・出光が実現しているわけだ。

22　資本家は変わったか

質問　店主は日本では一般大衆が株を所有しているような状態で、例外を除いては、もう昔のような資本家は出てこないと言われます。

経営とは何か

PF ドラッカー

そこで教育というものについても、従来の教育技術というものは非常に古く、二千年来ほとんど変わってきていないのであるが、この技術に大きな変革が期待できる。たとえば視聴覚教育、あるいはテープ・レコーダーを使う教育の機械化、あるいは、日本でもあらわれてきているプログラム学習といったような新しい手法がいろいろと考え出され、利用されるということが当然の事柄になってきている。

企業の将来をつくり出すことについての第一の方法は、いま述べたすでに起こってしまっている将来を推測し、予見して行動を起こすということになる。

将来の計画は大きなものを

むろん一〇年さき、五年さきの予測をするということには確実性がかけているという点で、相当の危険が伴なう。それは確実性が欠けているからである。なぜこういった不確実性が入ってくるかというと、必ず起こるということがわかっていても、たとえばいま生まれている子供たちが六年さき、七年さきには小学校の児童になるという確実性があるにもかかわらず、タイミングの不確実性ということを考えると、非常に問題がむずかしくなってくるわけである。

企業家として適切な時期に、不適切なことをするほうが、不適切な時期に適切なことをするよりもましだということはよく知っていることと思う。

第二に、この不確実性を増している要素として、こういう事象が起こるということが予見できてもどういう形でこれが実際に発生するかということを予測することがむずかしいということがある。

ごく簡単な例でいえば、最近アメリカで考え出されているプログラム学習の方法を使うと、アメリカの児童は四才で読み書きができるようになる。これは前にも述べた先生の要員が不足することから考え出されたのであるが、現在すでにこのプログラム及びプログラム学習の機械を使えば、四才の子供が完全に読み書きができるようになるということは立証されている。

そういったことが起こってくると、あるいは教育そのものの内容に大きな変化が起こってこないだろうか。それと同時に機械を使ったり、教室のレイアウトも違ってくるといったことで、学校教育そのものが違ってくるのではないかということがいえる。同じ教育の中でも、従来のやり方と今後機械化された教育との差異というものは、非常に顕著なものになるのではないかと思われる。

ところが、このプログラム学習に使われる教材をつくり出す企業体はどうかというと、大体の見当をつけなければならない。どういった形態を備えた教材になるか、どこでどう使われるのか、だれがどう使うのかということについて、ある仮説を立ててこれを考えなければならない。さもなければただ学会に一つの研究としてこれを発表しているに過ぎなくなってしまう。

そこで将来の形が予期できていると、その予期を充分に活用しようという場合には大きな仕事をねらうべきであって、その中のわずかなものをねらうのでは損だということがいえる。

×　×

健康の秘訣

出光　弘

私はこれとカルシウムイオン水とを併用して、数日で疲労を回復し、健康を取戻した数人の人を見て驚いている。私は、また、この方法がゼンソク患者に非常な著効があるように思われる。発明者は、ニキビがとれ胃腸がよくなり、水虫にも卓効があると張切っている。肩こりには素晴しい効果があり、使用した人は離されないといっている。

さて、健康法として特殊な運動や巷間いい方法が数多く行なわれているが、要するに如何なる方法も自分で熱心に実行してこそ効果があるものである。病気をせぬことが最も賢明であるから、日常先ずこれらを利用すべきであるが、不幸にして病気のある人は、例え重患であっても、以上のような色々な治療方法があるということを知っていただきたい。

生まれて四カ月の赤ちゃんに肝臓ガンができていたという話はよく知られているが、母体をアルカリ性に保つことは母親の責務と考える。

私は、妊婦になった人にササロンを丹念にとることをすすめているが、実行した人は悪阻も起こらず、できた赤ちゃんも健康そのものであることを知って母体をアルカリ性に保つことの肝要であることを痛感した。

さて、以上の締めくくりとして、私なりに以下十カ条を並べて見た。

㈠ 食事のとり方を誤らぬことは絶対肝要なことである。毎朝の生野菜など習慣となればやめられぬほどおいしいものである。

㈡ 白米の常食者は、リプロンのような麦の胚芽を併用することが必要である。白米は糠を除いた粕であるから。

㈢ 着色した食品、漂白した食品、加工した食品を避けてなるべく自然の食品をとらねばベンゼンやナフタリンのような有害なものがはいっている。チョコレート、その他子供の甘いものに特に警戒を要する。白砂糖は酸性である。

㈣ 洗濯などで、中性洗剤をじかに皮膚にふれぬようにせねば肝臓を冒され、顔に黒いしみが出てくる。野菜など絶対にこれで洗ってはいけない。

㈤ 中風にかかったら、速にヘルストロンを寝台に取付けて、同時に㈩に書いた体質改善方法に徹すれば効果てきめん快方に向う。言語や血圧で前ぶれのあるときこの方法を行なえば未然に防げる。

㈥ 胃潰瘍の初期にササロンや、コンフマツやカルシウムイオン水カロンを用いれば効果があり、タフネスを併用すればいいようである。

㈦ ガンは命旦夕に迫らぬうち、即ち早く理解ある医師の指図で体質改善に治療に徹底すれば、そんなにおそろしいものでもないらしい。

㈧ 現代病、糖尿病と肝臓病には、メソ酒石酸やカルシウムイオン水カロンという素晴しいものがあることを重ねて書いておきます。

㈨ 運動や深呼吸が健康に欠くべからざるものであることはいうまでもない。

㈩ 普通の人は、緑黄野菜と海草とカロンを日常用いていれば、病気予防の最も簡単な方法と思われる。

(完)

文久三年　吉田主水致兼　〃滞京中日記〃

松崎　武俊

廿五日晴天　他国他社の同職上勅文ある由なれども、田嶋は御社の御神名の儀に付き、これあり、少々混雑いたし候間、上勅文御座なきにつき、谷氏引き払い三条豊友屋友七方へ引っ越す、かれこれにて納金預り候分、かつ願書さし出し候分も願下げ、ことごとく持ち帰り、三条豊友にて日暮れぬ。その夜は亀石氏胸肩和泉頭下国祝酒などで飲み侍りぬ。

廿六日晴天、朝扇屋へ参り約束の扇四箱受取る。西村八次郎へ狩衣二ツ代弐両二歩払う。亀石胸肩氏同行にて帰宅用意仕る。亀石は右御社名の儀につき、本国々主御指し図受けに帰る。福岡表に伺い出のつもりにて、わざわざ下国仕るなり、同行も見立祝の盃にて日かたむきぬ、国本に買い調候ものもかたずけ、日並分の品ともに入れて送る。運賃見込みにて弐朱一つ出す、八ツ下りより小雨少々降る。手翰かずかず送る。

廿七日雨天、九ツ頃善十殿伏見水六より参る、参宮の咄聞く十二日ぶりに大阪まで帰る由申す、同日大阪のごと下る。同人手紙譲平殿に一封、忠四郎理平殿に一封、送る心も安度の思いをなすなり。いま京にて鉢植えの鉄銭花三本の分の一番咲き十四、五輪も盛りに咲くなり、大宮司様痛みにて心配仕る。

廿八日晴天、朝五条下角菱に黒二羽重羽織うら鼠、この分契約の通りに取りに行けども出来ず、明廿九日豊友まで◇びしより持ち参り仕るという、帰って箱崎大宮司はじめ、安部伊予殿見舞いに出向くにつき酒など呑む。大宮司病気も快方面白き体にて酒宴

廿九日晴天、参宮思い立ち用意仕る。

文久三年、吉田主水致兼滞京中日記〃は今月を以って終了いたしました。松崎武俊氏は八幡警察署の刑事さん、趣味として古文書を収集中、その内から当社関係のものを寄稿して下さいました。

次号から休載していた宗像数庵先生に全百話を執筆していただく予定です。

編輯部より

この号で九十四号、あと六カ月で百号となり、只今百号記念号を計画中です。愛読者各位に御寄稿をお願いする次第です。

編輯〆切は毎月二十日となっていますが、行事が多い為行事の間隙を縫って記事をまとめる事になり、各位のお手許に届くのが遅延する事があります。御寛容の程お願い致します。